

「第2、3回 新丸山ダム建設事業の 関係地方公共団体からなる検討の場 幹事会」開催される



2011
49

「第2回新丸山ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場 幹事会」が平成23年4月27日に、「第3回新丸山ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場 幹事会」が平成23年6月15日に、構成員の3県5市町(愛知県、岐阜県、三重県、恵那市、八百津町、美濃加茂市、一宮市、桑名市)と、検討主体の中部地方整備局の出席の下、名古屋市内で開催されました。

「検討の場」は、新丸山ダム建設事業について、「ダム事業の検証に係る検討に関する再評価実施要領細目」に基づき、検討主体と関係地方公共団体において相互の立場を理解しつつ、検討内容の認識を深め検討を進めることを目的に設置されたものです。

第2回の幹事会では、事業等の点検結果(総事業費、工期、推砂計画等)として、河川整備基本方針の策定に伴う計画外力の変更、ダム設計洪水流量の見直し、コスト縮減等により、予備放流方式を採用することによる「貯水池容量配分」及び「ダム高」の見直しをするとともに、この案による事業費点検結果等が説明されました。構成員からは、一日も早いダム事業の促進やさらなるコスト縮減を望む声の他、道路整備や、予備放流方式に関する意見等が出されました。

第3回の幹事会では、複数の治水対策案の立案、複数の流水の正常な機能の維持対策案の立案等として、25の「治水対策案」と、9の「流水の正常な機能の維持対策案」の説明等が行われ、構成員からは、一日も早いダム事業の促進やさらなるコスト縮減を望む声の他、それぞれの対策案に対し「50年や90年の工期を要する対策案は疑問」「評価の仕方について教えてほしい」等の意見が出されました。

第3回幹事会出席者



【愛知県】
近藤建設部長



【三重県】
久世総括室長
(県土整備部長代理)



【八百津町】
飯田参事



【一宮市】
山口副市長



【岐阜県】
金森県土整備部長



【恵那市】
安江建設部長
(副市長代理)



【美濃加茂市】
海老副市長



【桑名市】
伊藤都市整備部土木課長
(副市長代理)

八百津町・御嵩町合同防災関係等会議

を開催しました

4月15日、御嵩町役場において八百津町・御嵩町合同防災関係等会議が開催されました。この会議は、新丸山ダム工事事務所と八百津町及び御嵩町との間で取り交わされた「災害時の連絡体制等に係る申し合わせ事項」に基づき、災害関係の連絡窓口の確認や防災情報の共有・交換を行い、緊密な連絡体制の維持に努めるものです。



左から赤塚町長（八百津町）
渡辺町長（御嵩町）
石原所長（新丸山ダム）

八百津町及び御嵩町からは、昨年7月15日豪雨の災害復旧状況や、今年3月11日に発生した東日本大震災の支援状況の報告をいただきました。

また、新丸山ダム工事事務所からは、中部地方整備局の東北支援（ポンプ車や衛星通信車等の派遣等）を紹介するとともに、緊急災害派遣隊（TEC-FORCE）の隊員として阿武隈川（宮城県）の河川管理施設点検を行った事務所職員からの報告も行いました。

「災害時の連絡体制等に係る申し合わせ事項」

1. ホットラインの設置
町長・副町長（参事）と事務所長・副所長の間を設置します。
2. 災害支援要請等
支援要請等の連絡調整窓口を定めます。
3. リエゾン(連絡要員)の派遣
被害状況や支援ニーズ把握のため、リエゾン(連絡要員)を派遣します。
4. 平常時の情報共有・交換
4月と11月に防災会議を開催し、災害情報の共有・交換に努めます。

地域防災支援（八百津町防災訓練に参加）

本格的な梅雨の到来を前に、5月15日(日)八百津町防災訓練に、新丸山ダム工事事務所も参加しました。

今回の訓練は、昨年7月15日八百津町と可児市を襲った記録的集中豪雨による土砂崩れで3名が亡くなられた災害を教訓に、地域住民の防災意識向上を目的に行われました。

新丸山ダム工事事務所は災害発生時に地域の方々への支援を迅速に行うため、八百津町災害対策本部に被害情報や支援ニーズを把握するための「連絡要員(リエゾン)」と、土砂災害が発生したことを想定して「災害対策本部車及び照明車」の派遣訓練を行いました。その他、八百津町住民の皆さんの避難訓練や、岐阜県可茂土木事務所長他による防災講演会なども行われました。

災害対策車両の展示コーナーでは、避難訓練に参加された地域の方々など約800名(訓練参加者約760名:八百津町防災安全室)が、災害対策本部車の拡張された広い室内を見学されたり、昨年の八百津町災害時に照明車やポンプ車を派遣し応急対策を行った写真や、東日本大震災へ展示車両が派遣された写真を見られたり、「照明車は何時間照らすことができるのか(1回の燃料補給で24時間)」などたくさんのご質問やご意見も頂き、防災への関心の高さを感じました。

また、訓練に併せて行われた防災講演会場に新丸山ダム建設事業を紹介する「パネル展示」を行いました。



八百津町災害対策本部へ
連絡要員の派遣



災害対策車両を
見学する訓練参加者

平成23年度 丸山ダム周辺現地調査



国道418号



五月橋(右岸上流側から)

5月25日(水)に恵那市飯地町にある笠置ダムから加茂郡八百津町南戸地内までの約16kmの「丸山ダム周辺現地調査」を新丸山ダム工事事務所と丸山ダム管理所の合同(参加者9名)で実施致しました。これは丸山ダム貯水池内及びその周辺の現状を把握するため、徒歩で調査するものです。

ダム湖岸道路の一般国道418号は幅員が狭小で急峻な地形で、断崖、また未舗装の箇所や土砂崩壊している箇所、藪など所々にあるため慎重に歩行しました。近年運動不足で著しく低下してしまった脚力には険しい道程でした。

しかしながら、目に映る景色は美しく、足の痛みを忘れさせてくれました。

特に物静かな浅緑の湖面とダム湖に架かるスレンダーな構造の吊橋(五月橋)は調和がとれて、とても美しい景観でした。

現地調査を徒歩で行ったことで、ダム湖周辺の変状や水の状態等をより細かく確認できました。

東日本大震災での緊急災害対策派遣隊(テックフォース)における 河川管理施設点検報告

平成23年3月11日に発生した東日本大震災において、中部地方整備局の災害支援である緊急災害対策派遣隊(テックフォース)として、3月21日から3月27日まで活動してきました。

新丸山ダムから3名、丸山ダム管理所から1名と運転手の計5名で宮城県の阿武隈川中流部の河川管理施設点検を実施しました。点検は堤防を横断して住宅地から川へ排水する樋門(ひもん)・樋管(ひかん)という施設で出水期に向けての機能の確認です。樋門・樋管の中に入ってひび割れの調査や樋門・樋管本体周辺の護岸や堤防の沈下状況などを調査しました。

新丸・丸山班の調査点検担当区間における樋門・樋管本体は大きな被災はありませんでしたが、河口部は被災を受けており、梅雨期や台風期に対しても心配なところです。

護岸の破損



樋管の門柱調査



樋門内部状況調査



新丸山ダム勉強会にて「防災・危機管理」をテーマに報告

平成23年5月20日、八百津町ファミリーセンターにて新丸山ダム勉強会を開催しました。今回は3月11日の東日本大震災の支援報告と今後の防災対策を充実するため「防災・危機管理」をテーマに、周辺地域の県、市、町、水機構の方にも東日本大震災における支援状況を報告して頂きました。

緊急災害対策派遣隊による河川管理施設点検、避難所運営支援や給水車支援、医療スタッフ派遣、物資支援、義援金、避難者の受け入れ等、各機関で支援内容は違いますが、1日も早い復興を願う思いはどの機関も同じであることを改めて認識し、有意義な意見交換、情報共有を行うことができました。



がんばれ東北！
がんばれ日本！